

新たな一歩を...

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）および旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）は、平成 27（2015）年 4 月に新館長を迎え、新たなスタートを切りました。また、旧西尾家住宅は同年 10 月 1 日をもって開館から丸 10 年という一つの節目を迎えました。

吹田市では、貴重な文化財である両住宅について、その価値が損なわれないよう適切な管理を行っていくとともに、両住宅が持つ価値・魅力を皆さんによりアピールすべく、積極的な活用を図ってまいりたいと考えています。



国指定重要文化財

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）

平成 27 年 4 月から館長に就任いたしました赤松です。

本住宅は、今年開館 10 周年を迎え、記念の事業を開催しております。

今後も市民の皆様に楽しんでいただきながら、吹田市で唯一の重要文化財建造物として、文化の薫りを感じていただければと思います。



国登録・市指定有形文化財

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）

館長の松本です。

この秋の特別公開では、長年にわたり「開かずの門」であった表門の開放や茶室内部の初公開などを実施しました。

また、11 月から国登録記念物（名勝）である庭園の見学日を増やす取り組みを始めました。

これからも、より多くの方に旧中西家住宅を訪れていただけますよう、様々な取り組みに挑戦していきます。

本号は文化財特集号

市内の文化財や、文化財を保護するための本市の取り組みについて、文化財保護担当職員がご紹介します。

◇旧西尾家住宅・旧中西家住宅でのイベント、新たな取り組み

◇旧吹田街道周辺の文化財 ◇垂水南遺跡第 60 次調査について etc.

文化財保護の取り組み

埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在約 150 か所の遺跡（埋蔵文化財）があります。遺跡の中で開発等が行われると、遺跡が壊され失われてしまう恐れがあります。そこで、埋蔵文化財包蔵地や周辺地で土木工事が行われる際、遺跡に影響を与える恐れがあると判断される場合には発掘調査・試掘調査、遺跡に影響を与えないと予測される場合には埋蔵文化財出土の有無を掘削工事工程の中で確認する工事立会を実施します。

平成 26（2014）年度は、22 件の発掘調査、11 件の試掘調査、78 件の工事立会を実施しました。発掘調査の成果については、次頁および 6・7 頁をご覧ください。

文化財の保存・管理・公開・活用

文化財調査

市内にのこる文化財の保護を目的として、文化財の所在状況や実態を把握するための学術的な調査を行います。また、開発等に伴い、その歴史性や学術的評価が行われないうまま滅失する事態も多いことから、保護の方策や方針を得る必要がある場合に、緊急調査を実施しています。

平成 26 年度には、佐井寺護摩堂屋根や山田東 4 丁目の古民家などの調査を行いました。

文化財保存事業補助金の交付

文化財保護法、大阪府文化財保護条例及び市文化財保護条例による指定・登録を受けた文化財について、その保存と活用を図ることを目的に、保存・修理事業に対して補助金を交付しています。

平成 26 年度は、市登録有形民俗文化財 1 件の防災工事業と、市指定無形民俗文化財 1 件および市登録無形民俗文化財 4 件の保存事業に対し補助金を交付しました。

文化財の管理・公開

国史跡七尾瓦窯跡、国史跡吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田 34 号須恵器窯跡および雉子啜碑について、管理を行うとともに一般公開しています（常時見学可）。

文化財の普及・啓発

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡等の文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。

平成 26 年度は、府指定有形文化財である山田伊射奈岐神社本社本殿の説明板を、同神社の境内に設置しました。

旧西尾家住宅・旧中西家住宅の保存・活用

旧西尾家住宅（内本町 2 丁目 15 番 11 号）

旧西尾家住宅は、国の重要文化財に指定されています。また、庭園が国登録記念物（名勝地関係）となっています。平成 17 年 10 月より「旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）」として開館し、一般公開を行うとともに、様々なイベントを開催しています。

《トピックス》

平成 27 年 9 月 22 日・23 日に、開館 10 周年記念イベントとして観月会が開催されました。

茶室や庭園にゆらぎ灯を点灯させ、来館された皆様には“夜の旧西尾家”をお楽しみいただきました。23 日には観月コンサートも催され、両日とも多くの来館者で賑わいました。

また、10 月 31 日には、旧西尾家住宅についてより深く知っていただくための講座を開催しました。第 1 回



講演の様子

の今回は「重要文化財ってなんだろう」をテーマとし、講師として大阪府教育委員会事務局文化財保護課の地村邦夫氏をお招きして、文化財保護の制度やその歴史、建造物保護の歩みなどについてお話いただきました。また講演後、建物や庭を見て回りながら、館内ガイドボランティアの方々に旧西尾家住宅について解説をしていただきました。

旧中西家住宅（岸部中 4 丁目 13 番 21 号）

旧中西家住宅は、国の登録有形文化財・市指定有形文化財となっています。また、庭園が国登録記念物（名勝地関係）となっています。平成 20 年 2 月より「旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）」として一般公開しています。春と秋には特別公開を実施しています。

《トピックス》

当住宅の公開日は、水・土・日の週 3 回としておりますが、平成 27 年 11 月 1 日より、庭園の公開日を拡大する取り組みを、試行的に開始いたしました。詳しくは旧中西家住宅（Tel 06-6386-1182）までお問い合わせください。

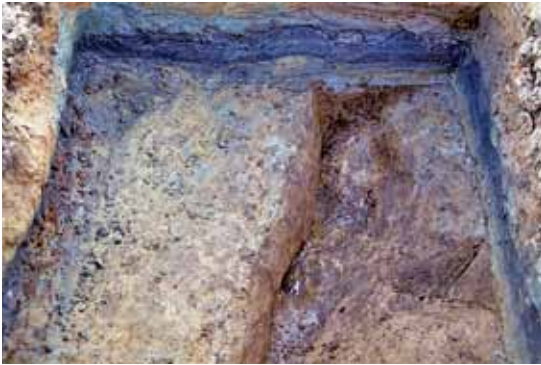
（中岡宏美）

市内遺跡の発掘調査状況

平成 26 年度から平成 27 年度前半にかけては、6 ～ 7 頁で紹介する垂水南遺跡第 60 次調査のほかにも、小規模ながらいくつかの発掘調査を実施しました。ここではその主なものを紹介します。

なかのつぼいせき 中ノ坪遺跡

平成 26 年 11 月、岸部南 2 丁目に所在する中ノ坪遺跡で 6 か所の調査トレンチ（合計約 19 m²）を設けて調査を実施しました。調査では、弥生時代・古墳時代・中世の土器片を検出するとともに、古墳時代のものと考えられるピットや溝などの遺構を確認することができました。



溝検出状況

すいたそうしゃじょういせき 吹田操車場遺跡

平成 27 年 3 月、吹田操車場遺跡の周辺地（岸部中 5 丁目）において、6 か所の調査トレンチ（合計約 42 m²）を設けて実施した試掘調査では、古墳時代・平安時代の土器片とともにピットや土坑、溝などの遺構を検出することができました。これにより、吹田操車場遺跡の範囲が拡大することが新たに判明しました。



遺構検出状況



土師器皿（中世）出土状況

平成 27 年 4 月・5 月、江坂町 3 丁目の蔵人遺跡において調査を実施しました。調査では、調査トレンチ 2 か所（合計約 13 m²）を設けて掘削を行い、鎌倉時代の遺物とともに、落ち込み跡を検出することができました。

くろうどいせき 蔵人遺跡



落ち込み跡出土状況

平成 27 年 8 月、岸部中遺跡の周辺地（岸部中 3 丁目）において実施した試掘調査（調査面積約 23 m²）では、古墳時代・平安時代・中世の遺物とともに落ち込み跡を検出することができました。これにより調査地は新たに岸部中遺跡 B 地点として周知されることになりました。

きしべなかいせき ちてん 岸部中遺跡 B 地点

（賀納章雄）

旧吹田街道周辺の文化財

15 渡辺英綱墓

江坂公園墓地に江戸時代中期の和算家 渡辺英綱の墓があります。

旧吹田街道は吹田と豊中・池田方面を結ぶ道で、南高浜町で旧亀岡街道から分岐し、吹田市域南部をほぼ東西に通る。豊中市の服部で旧能勢街道に到達します。内本町の道筋、泉殿宮周辺、垂水神社参道、旧江坂町一帯に旧の景観や道の雰囲気をよく伝えています。

2 六地藏道標

旧亀岡街道筋に建てられています。



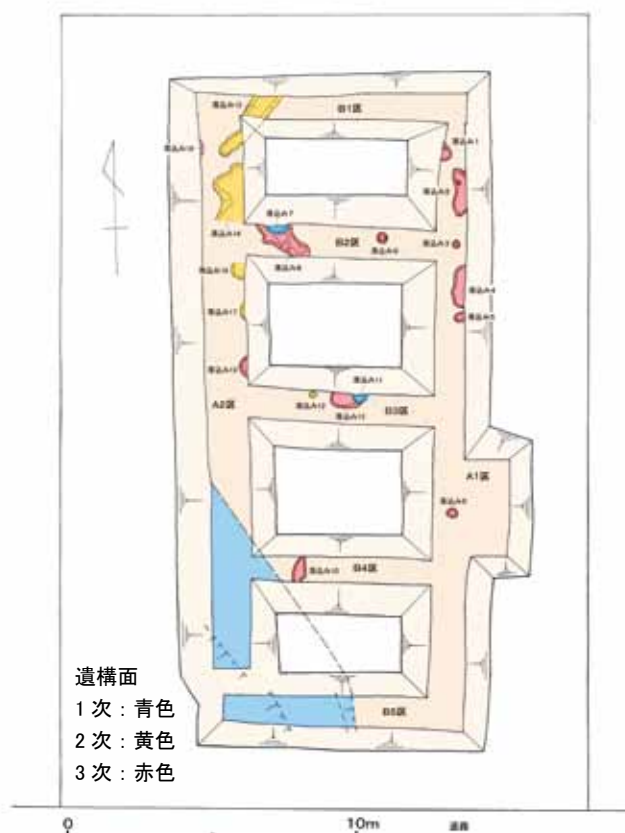
垂水南遺跡第 60 次発掘調査の成果

1 垂水南遺跡について

たるみみなみ

垂水南遺跡は吹田市垂水町 3 丁目・江坂町 1 丁目に展開し、昭和 41 年度から行われた区画整理事業による下水管埋設工事の際に発見されました。これまでの調査により、弥生時代～中世の複合遺跡であることが確認されています。なかでも中心となるのが古墳時代前期～中期の集落跡で、竪穴式建物、掘立柱建物等の建物跡、土坑、井戸、溝などがみつかっています。出土遺物は集落内で日常に使用された土師器^{はじき}が多く、その他、金属器生産、玉造生産の関係遺物も出土しています。また、平安時代のものとして第 5 次調査で見つかった河道から「垂庄」等と書かれた墨書土器が出土し、弘仁 3(812)年に成立した東寺領垂水庄に関連した遺物と考えられています。

今回の調査は、共同住宅建築工事に伴う事前調査として、吹田市垂水町 3 丁目 25 において平成 27 年 6 月に実施したものです。



調査区平面図

2 調査の成果

調査区 7 ヶ所を設定し、地表下約 1m までは機械掘削、それ以下は主に人力により掘削を行いました。当調査区の基本層序はⅠ層（現代盛土）、Ⅱ層（現代盛土水田耕土）、Ⅲ層、Ⅳ層（中世）、Ⅴ層、Ⅵ層、Ⅶ層（1 次遺構面ベース層



A 2 区近景（北から）



土師器（古墳時代）出土状況

平安時代)、Ⅷ層(古墳時代遺物包含層)、Ⅸ層(2次遺構面ベース層 古墳時代)、Ⅹ層(3次遺構面ベース層 地山)です。

これらの土層のうち、現地表面から約1.1m付近に展開するⅦ層で1次遺構面が認められ、A2区及びB2・5区で河道1か所、ピット2か所が見つかりました。河道は北西～南東方向に流れ、幅4m以上、深さ約0.4mを測ります。河道の堆積層は灰色細砂、暗灰色粘質土、茶褐色粘質土など数層にわたり、ここからは平安時代の土師器が出土したことから、平安時代の河道と判断されます。

地表下約1.3m付近の2次遺構面では、ピット3か所、土坑1か所、溝1か所が見つかりました。主に調査区の北半部に認められ、集落跡関連の遺構と考えられますが、明確にはできませんでした。

地表下約1.5m付近の3次遺構面では、ピット8か所、土坑4か所が見つかりました。B2区で確認した落込み9には柱の沈下を防ぐ礎板が残り、柱穴と判断されますが、その他の遺構は



土師器杯(平安時代)



人面墨書土器

古墳時代の集落跡の一部と考えられるものの、遺構の配列状況に規則性がなく、明確にできませんでした。

出土遺物は遺構、遺物包含層等で認められ、その内容は、弥生土器(甕)、古墳時代の土師器(壺、甕、高杯、鉢、器台、4～5世紀)、須恵器(杯、甕)、平安時代の土師器(杯、甕)、砥石、木製品(しゃもじ、曲物)等で合計遺物収納箱約10箱分が確認されました。特に平安時代の土師器の側面に墨で顔が描かれた人面墨書土器は、市内の遺跡では出土例が少なく、貴重な資料です。

以上のとおり、今回の調査では3次にわたる遺構面に遺構が合計20か所確認されました。1次遺構面では平安時代の河道が確認され、平安時代の荘園に関連したものである可能性があります。2次及び3次遺構面の遺構は古墳時代の集落跡の一部と判断され、大量に出土した土器類は集落から排出されたものと考えられます。

(西本安秀)



木製しゃもじ



曲物

【博物館】平成 27 年度特別企画「むかしのくらしと学校」

毎年、学校教育との連携として小学校 3 年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に合わせ、特別企画「むかしのくらしと学校」展を開催しています。今年は 12 月 8 日より開催です。展示は、電気やガス、水道がまだ普及していなかった頃の衣・食・住の道具や学校の教材・写真などもパネルにして紹介しています。

また、ちょっとむかしを体験していただく 10 のコーナーを用意しています。この特別企画は、博物館ボランティアのみなさんと内容を協議し、案内解説等のご協力を得て開催しています。

土・日・祝日には子ども向けの関連イベントも開催します。ご家族でお楽しみいただければと思います。

(博物館職員 福田博)

関連イベント (◆親子・子ども体験講座◆)

「おひなさまを作って飾ろう」

日時：平成 28 年 2 月 14 日 (日)

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：竹筒、和紙、木材等を使って作ります。

定員：午前、午後の部とも各 15 名

対象：小学生・中学生

申込：2 月 2 日 (火) 必着

「やさしい竹細工」

日時：平成 28 年 2 月 28 日 (日)

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：竹をつかったおもちゃなどを作ります。

定員：午前、午後の部とも各 30 名

対象：5 歳～中学生

申込：2 月 16 日 (火) 必着

「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」

日時：平成 28 年 3 月 13 日 (日)

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：昔ながらの遊び道具や牛乳パック等、身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

定員：午前、午後の部とも各 30 名

対象：5 歳～中学生

申込：3 月 1 日 (火) 必着

「大昔のアクセサリー～^{まがたま}勾玉作り～」

日時：平成 28 年 2 月 20 日 (土)

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：ろう石を削ったり磨いたりして大昔のアクセサリー勾玉を作ります。

定員：午前、午後の部とも各 40 名

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2 月 9 日 (火) 必着

「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成 28 年 3 月 5 日 (土)

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：ろうそく、行灯、石油ランプ等、昔のあかりを学習し、火打石やまいぎり等の火おこしを体験します。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2 月 23 日 (火) 必着

■申込方法

はがき、または FAX にて、講座名、希望の時間帯、参加者全員（付き添い含む）の氏名、学年、郵便番号、住所、電話番号を書いて博物館まで。申し込み多数の場合は、抽選となります。